

○貴志倫子 平田道憲* (広島大・院 *広島大)

目的 家庭経営における妻と夫の共同が求められており、夫の家事労働参加が望まれている。そこで家事参加における就業の影響をみるために就業日の属性を考慮した生活時間データより夫の家事労働への関わりを行為者率、行為者平均時間より分析する。家事項目、妻の就業形態、学歴を考慮し夫の行う家事労働パターンを明らかにし、家事労働に積極的に関わる夫の特徴を示すことが本研究の目的である。

方法 1996年12月、広島市中、南、東区在住の核家族世帯の妻と夫を対象とした生活時間調査を実施。2段階確率比例法に基づくスクリーニング・サーベイ。標本162組、有効回収数81組(50.0%)。日曜・月曜2日間の生活時間ならびに妻、夫、世帯の属性と態度を調査。このうち本研究では夫が有職の世帯を分析対象とした。

結果 (1) 夫の生活時間は妻に比べて就業日の属性の影響をより強く受けており、家事労働時間も就業日による差が大きい。(2) 就業日に夫が行っている家事は掃除が多いが全体の1割に過ぎず、炊事に関わっている夫の費やす時間は有職妻に比べても短く、内容も妻の手伝い、自分一人の食事の準備というケースがほとんどであった。

(3) 対象者の3分の2の夫が非就業日には家事労働に参加しており、関わっている家事労働は買い物、家庭雑事が中心である。(4) 子どもの世話をしている夫は、妻と同程度かそれ以上の時間を費やしており、とりわけ専業主婦の夫の関わりが多く、学歴との差もみられた。